

第4回奈良県立万葉文化館授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 中澤静男

開催日時 平成30年11月22日(金・祝)
会場 奈良県立万葉文化館
参加者 石原(平城小学校)、梶原(平城西小学校)、吉原(万葉文化館)
北村・中澤(奈良教育大学)

内容

1. 自己紹介

2. 万葉集からのぞくESD(石原)

夜ぐたちて 鳴く川千鳥 うべしこそ 昔の人も しのひ来にけれ 大伴家持

(1) 万葉集

・末永く伝えられるべき歌集

奈良を題材とした歌が多く読まれている

5音7音の独特のリズム

作者は様々



(2) 国語科

「言葉」そのものを扱う教科

教材内容そのものを扱うものではないのでESDとなったときに難しさがある

(3) 実践について

いにしへから学ぶ～わたしの夏

万葉集を導入に位置付けた

いかにして万葉集を児童に近づけるかがポイント 現代の叙景詩も紹介し、形は違いが、やっていることは同じ

自分の感動が相手に最も伝わるように工夫して五音七音にまとめる

言語活動の特徴

○学習のプロセス ESDでは問題解決の学習プロセスを通して行動化を促進する 国語科も同じ

「書く」ところ: 「書く」ことは問題解決学習になる

「書く」ことにフォーカスした学習 どうすれば伝わるかを試行錯誤する学習

・自分の気持ちや考えが読み手(未来の私を含む)に伝わるように

言葉にこだわることで、言語感覚を磨く

・自分の気持ちと関連する場面を五音七音にまとめる

・それぞれの生活体験にうったえかける 情景で表現する

・「書く」活動には、まず、自分の思いがある。それが切実であればあるほど、学びの原動力になる。

・万葉集 過去と今をつなぐ

1300年前のその人の思いをそのまま感じられる。

つながっていることそのことがすごいと感ずることができる

自分たちのやっていることも未来につながっていく という実感へ

いにしへ 往にし方 行ったことがあるところ 「昔の人も」
往にし方と自分をつなぐ「言葉」
「言葉」が過去と今と未来をつなぐ基盤
だから「言葉」を磨くことがESDでもある

ESDで育てる「つなぐ」力

そのツールとして「言葉」を磨く

時間を超える、未来の人にも伝わる「言葉」の探求

言葉は当たり前すぎて自覚しにくい

万葉集を持ってくることで、「時間を超える言葉の力」に着目できる

「言葉」を学びの目的にできる

国語科とESD 「つなぐ」力

伝え方を交流することで洗練化を図る

読み方も同じ

それら（言葉の選び方）は生活経験に依存している

それに気づくことが「メタ認知」を育てることができる

「相対化」する力の育成 それはESDになる



次回は、12月15日（土）10時～12時に開催します。会場は、奈良県立万葉文化館です。